

「生きる力」をはぐくむ評価のあり方

I 研究の内容

1 研究の方向性

これまでの研究を振り返ると、2009年度は、国語科において単元を通して1枚ポートフォリオを用い、読み取りの深まりや気持ちの変化を見取っていった。2010年度は、道徳の授業を通じて研究を行い、学習前・学習後において、児童の道徳的価値の高まりや心の変化を見取ることができた。2011年度は1枚ポートフォリオの作成・活用の仕方をさらに研究史ながら、生活科や社会科の授業を通じて検証を行い、表現する力が伸びたり、理解が深まったりすることを見取ることができた。そして、2012年度は、さらに教科を広げて算数科・理科で研究を進めた。1枚ポートフォリオから児童の実態をつかみ、児童の学習意欲向上をめざして取り組んできたが、1枚ポートフォリオを振り返ったり、児童相互に交流したりすることで、自己肯定感が高められ、学習意欲向上にも効果が出てくることが確認できた。そして、2013年度は1枚ポートフォリオ評価法に焦点を当てた6年目として、国語科と道徳で授業を行った。1枚ポートフォリオを活用することで、子どもの学びの足跡を子ども自身が振り返ることができ、それが意欲の向上や自己の成長の実感につながった。また、子どもが学習の最初と最後でどう変わったかの変容や、子どもの考え方やとらえ方を見取って評価に生かすことなどができ、さらに研究が深まった。一方、2014年度に出された「評価する際の指標となる言葉」や「PDCAのサイクルに1枚ポートフォリオがどう関わっているか」については、今後も研究課題の一つとして捉えていく。

本年度は、これまでの研究の成果を生かしながら、いろいろなポートフォリオについての研究(1枚ポートフォリオにこだわらず、いろいろな形のものを使って評価していく。子どもの実態、学年、教師の思いなどによって柔軟に変えていく)や、評価した後の子どもの変容も続けて見ていく、といった視点にも重きを置きながら研究を進めた。

2 研究授業

- ・総合学習 第6学年 「平和について考えよう」
- ・社会科・総合学習 第5学年 社会科 「国土の自然とともに生きる・自然災害とともに生きる」
総合的な学習「環境について考えよう」

II 成果と課題

1 成果

- ・授業研究を通して効果的な指導方法、評価の方法について深めていくことができた。
- ・一枚ポートフォリオについても今までの実践を基にして効果的な研究を行うことができた。
- ・総合的な学習の授業方法の展開を6年生5年生の学年で研究できたことがよかった。
- ・一枚ポートフォリオにこだわらないでファイル形式のポートフォリオ(原藤T)等、子どもの実態に応じた評価が計画的に進められていた。
- ・社会科と総合的な学習の時間の合科的な授業における一枚ポートフォリオについて学習することができた。(一枚ポートフォリオの形式を学び、自校でも英語の学習で一枚ポートフォリオによる評価を行うことができた。)
- ・教師にとっても児童にとっても有効に機能する評価について主に授業研究を通して共

通に確認することができ、一枚ポートフォリオに限らず児童の意欲や自己肯定感を高める様々な評価の方法について考えることができた。継続研究の積み上げを受け日常の授業実践の中で評価を視点に授業改善を意識する事ができた。8月2月の授業研究はどちらも新しい分野のダイナミックな実践で共有することができありがたかった。

- ・ノートの記事やワークシートの活用により児童の学習の様子や理解を評価することができた。

- ・一枚ポートフォリオを基に他の学習記録から評価していく手法を学ぶことができた。

- ・いろいろな形のポートフォリオを見せていただいて（各自が持ち寄ったもの）とても参考になった。教科、内容で様々な工夫ができることが分かった。

- ・勝沼小の総合の取り組みはこれまでにない長期的なものだったが、子どもたちにとってはとても大切で実りのある学習だったと思う。

- ・一枚ポートフォリオの形式にこだわらず、授業者のねらい（見取りたいこと、評価させたいこと）に沿った評価のツールとして活用されていた。

- ・津野先生が指導・助言の中で望む子ども像として「自分の評価が自分でできて、それをその後の自分に生かせる子」とおっしゃっていた。評価を通して生きる力を育むということが分かった気がしました。

- ・これまでにいろいろな教科におけるポートフォリオの活用について部会の中で研究してきたが、今年度は総合的な学習におけるポートフォリオの活用の仕方について学ぶことができてよかった。

- ・ポートフォリオを活用するにあたり、日頃から学習感想を書くなど書くことへの抵抗を少なくするための指導が大切なことがわかった。

- ・子どもたちが書く学習内容への思いや考えなどを記録したポートフォリオが総合的な学習の評価に有効であることが分かった。また、子どもの変容を見取ることもできることが分かった。

- ・「評価したことを次時に生かす」ということが前年度より一歩前進できたように思います。

- ・何年も継続して取り組んできたことで、以前より肩の力を抜いて自然な形で取り組めるようになってきたように思います。

2 課題

- ・部会の人数が少ないので、年二回の研究授業は負担が大きい。夏の授業研に向けて中身の濃い研究をしっかりと行っているのに形式的な枠で年二回の実施というのは検討していただきたい。

- ・年度当初の課題としてあげられていた「評価する際の指標となる言葉」について、総合的な学習の時間のように合科的なものにポートフォリオを用いるのであれば、教師の方でより明確に指標となる言葉を想定していなければいけないと感じた。

- ・一枚ポートフォリオに限らず教科や内容や児童の実態に適した評価の方法を考え実践してきたが一枚ポートフォリオの研究実践は継続し、進化したオリジナルな一枚ポートフォリオを作成し実践の中で活用していくことも部会としておもしろいと思う。

- ・個々の授業実践を交流することが時間的にあまりできなかったが、評価を意識して実践すること、それを部会内で交流することも勉強になると思う。

- ・熱心な日頃の授業実践や部会としての研究授業を重ねたことにより oppa の実践活用について技量を確かめ、基本的なスタイルを確立できたと思う。

- ・一枚ポートフォリオにこだわらず、その学習の中でよりよい評価のしかたを探っていく方向でよいと思う。

(部長 小林 光三)